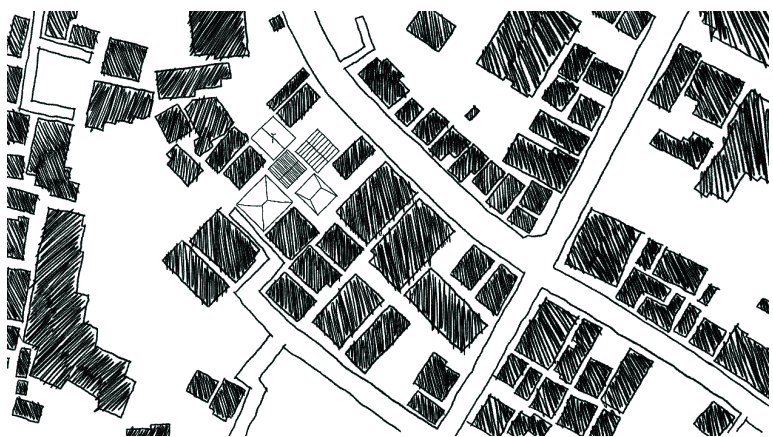


湿潤にほころぶ

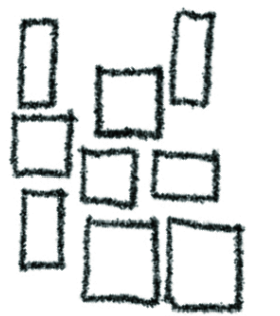


敷地 東京都新宿区若葉町須賀神社裏谷に位置しており、湿気が多い。

湿潤は全ての物事に等しく作用する。それは自分が、建物や植物や虫と平等だったことを思い出させる。

周りの環境は浸透しあう。長い年月は湿潤などを通して物事を変化させる。床の劣化して剥がれ、その下から植物が芽を出す。壁が腐り、自らの領域が増え、他の家と壁を伝って湿潤を共有する。

領域が壊れること、新しく得ること、他と共有することは自然の作用に従って行われる。それは決して善悪つけられるものではなく、自分も、他も、変化を受容していく。



地図から見える関係

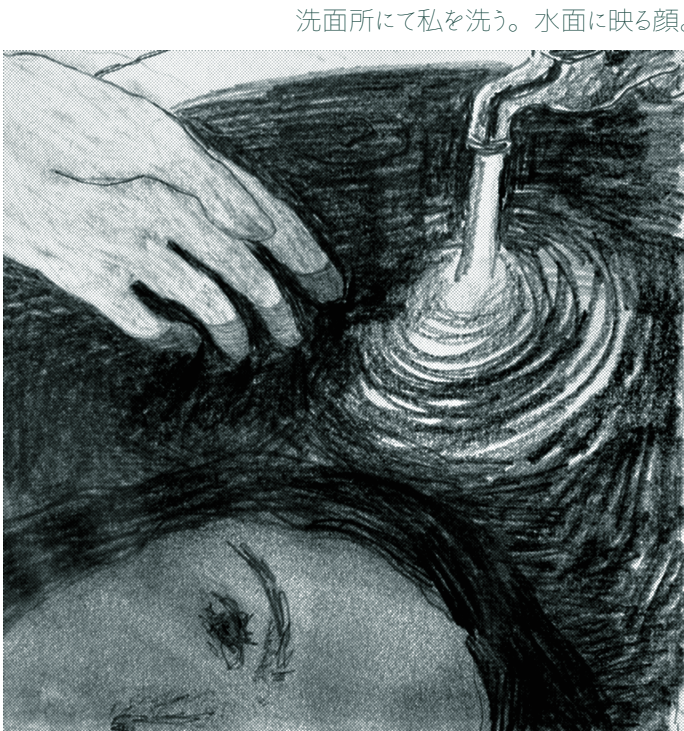


実際の関係性

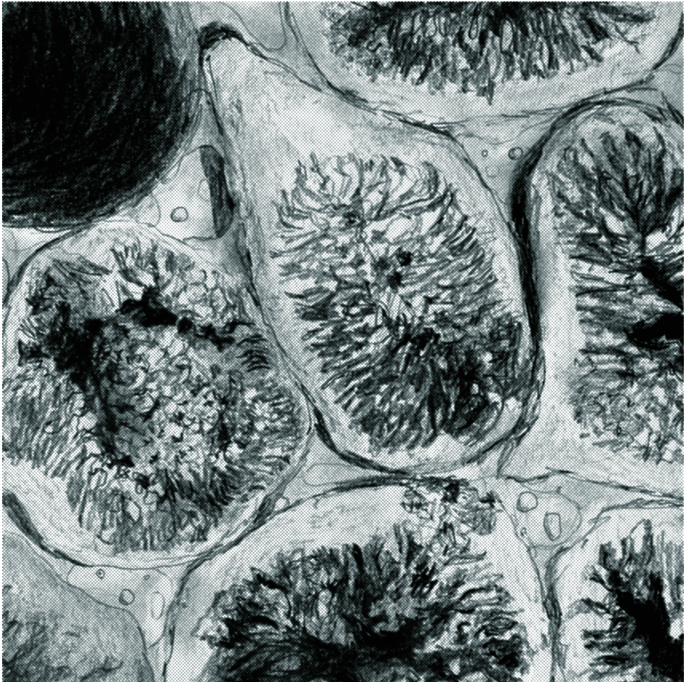


新築当時の平面図。木造軸組、910モジュールの家。

歩む度にひんやりと冷たい植物が私に素肌を思い出させる。



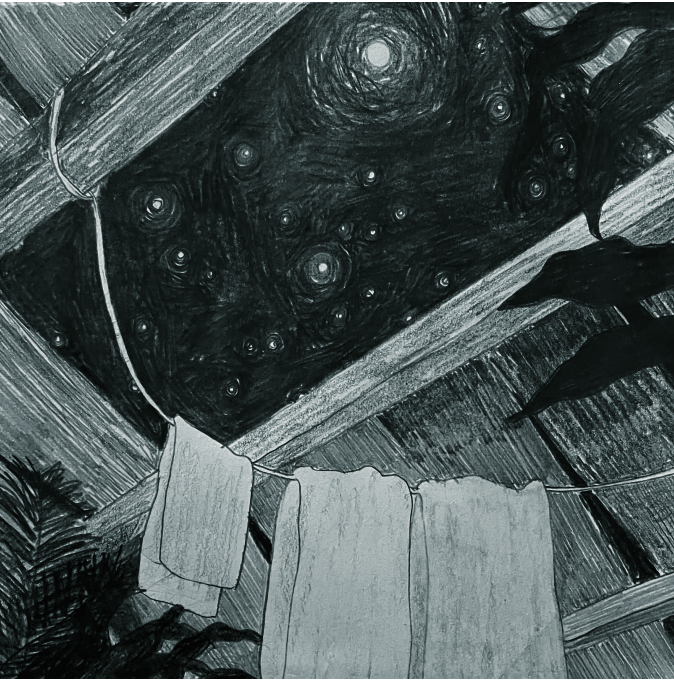
洗面所にて私を洗う。水面に映る顔。



庭のいちじくをもぎとる。水分と自分の身体のあり方を探すように器の中で満ちるいちじく。

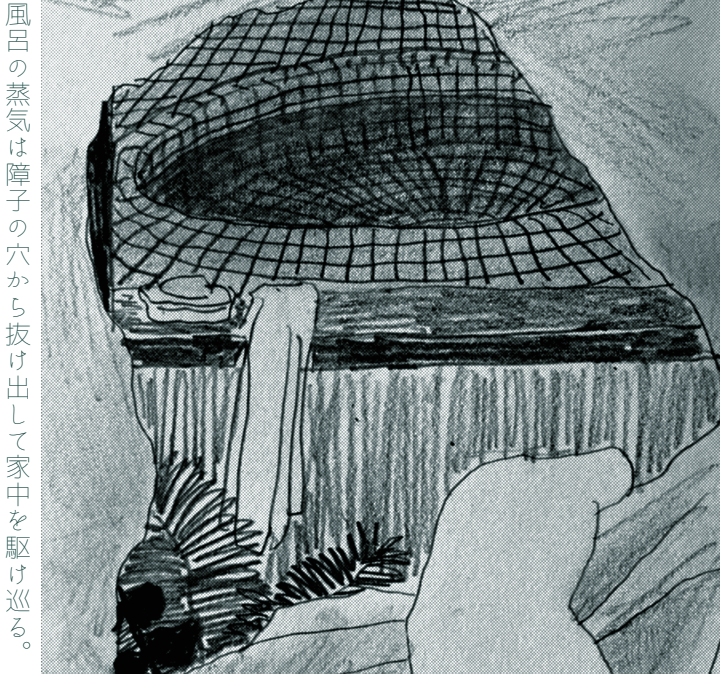


風呂の蒸気は窓辺にて凝結しガラスを曇らせ隣の家の灯のみを微かに通す。



雨漏りにより屋根の空いた所に洗濯物を干す。洗濯物は外気を含み湿度を逃がす。

植物、更には鼻先まで凍る寒さに眠りから起こされる。



風呂の蒸気は障子の穴から抜け出して家中を駆け巡る。



雨が降り土から立ち込める湿気に濡ける障子。



冷たい雨を体になじませて膨張し自らの身体を広げる土。



雨の冷たさを打ち消すように私の身体の中の熱は変わらず燃える。



やかんや炊飯器からこぼれた湯気は蒸し暑さを連れて壁を這い回る。

剥き出た垂木に干した服は重なり、隙間からは柔らかく光を通し自分を包み纏となる。